興味・態度・鑑賞の測定法に関する考察

——読書のそれを中心に——

岡　本　奎　六

1. 興味，態度，鑑賞の相互関係

音楽や読書などの一定の現象や刺激に対する興味，態度，および鑑賞の相互の関係について，クラスウォール[1)]は，つぎの二点をあげている。

第1に，興味，態度，鑑賞の三者は，いずれも「認知的能力」というよりも，「情意的能力」である。もちろん，これら三者は，知識，理解，思考といったような認知的能力と全く無関係ではない。その学習指導の水準においても，測定評価の水準においても，これら三者は認知的能力と密接な係わりを持っている。たとえば，文学鑑賞の学習指導に当っては，文学的知識や理解や思考という認知的側面からの指導も必要である。これら認知的側面の指導を通して，文学鑑賞を一層高めることができよう。

また，文学鑑賞の測定評価に当っても，文学的な知識や思考の側面を加えることは，しばしば包括的で妥当な測定評価を得なうことができる。

つぎに第2に，情意的能力としての興味，態度，鑑賞は，これを分析すると，お互に共通な重複したいくつかの「能力要素（行動主義的にいえば行動要素）」から構成されていることがわかる。クラスウォールによると，情意的能力の能力要素（行動要素）は，つぎの1.0から5.0までの5つに分けられる。

1.0）　受け入れ（注意すること）　これは，現象や刺激に気付き，注意を向けるということで，たとえば「いろいろな音楽に寛容になり，受け入れる」，ということである。この受け入れは，さらにつぎの3つの階層に分けることができる。

1.1）　現象に気付き，これを知覚する。

1.2）　現象を積極的に受け入れる。

1.3）　現象に選択的な注意を向ける。

「読書クラブに入りたいと思う」,「いろいろな書物を集めたいと思う」,「コンサートを聞きに行きたいと思う」——これらは，いずれも受け入れである。

2.0） 反応 単に現象や刺激に注意を向けるだけではなく，これに対して何かを行なうことで，たとえば「青少年向けの書物や雑誌を進んで読む」，といったような行動である。この反応もまた，つぎのような3つの小階層に分けることができる。

2.1） 現象を全面的に受け入れるわけではないが，反応を黙従する

2.2） 積極的に現象に反応する

2.3） 反応することに満足感を持つ

反応の例をさらにあげれば,「一時間以上飽きずに読書をする」,「年に少くとも一回はコンサートを聞きに行く」，などの具体的な行動である。

3.0） 価値付け これは，現象や刺激に外的な反応をするだけではなく，現象や刺激に価値を認め，これに関係した行動に徹することで，たとえば「痛感した問題について，新聞や雑誌に投書を行なう」，といったことである。

この価値付けは，さらにつぎの3つの小階層に分かれる。

3.1） 現象や刺激に価値を認める

3.2） 価値を認めるだけでなく，これを好む

3.3） その価値にさらに傾倒する

価値付けに属する行動としては，さらにつぎの例があげられる。

「書物をたくさん集め，所有する」,「音楽書に興味を持ち，これを熱心に読む」

4.0） 組織化 これは複数の価値が存在する事態で，価値の体系を作り，内部的な関係付けを行なうことで,「アメリカの社会の進むべき方向について，生徒が自らの判断を形成する」，といったような行動である。

組織化は，つぎのような2つの小階層にさらに分かれる。

4.1） 現象や刺激に対する価値を概念化する

4.2） 概念化に基ずいて価値体系を組織する

組織化に関する行動例としては,「読んだ本によって，結婚や家族制度に関する自分の考えが変化する」，という内的な行動があらわれる。

5.0） 個性化の実現 これは，価値体系，信念，態度等がさらに関連付けられ，

全体的な世界観に体系化されて，行動を統制するようになることである。「一貫した人生哲学を作り上げる」は，その例である。

個性化の下位の階層は，つぎの二つである。

5.1） 1セットの価値体系が構成され，内的な一貫性が与えられる。

5.2） 一群の価値体系，信念，態度等に内的な一貫性が与えられ，個性化が実現する。

以上のように，興味，態度，鑑賞などの要素分析から，5つの能力要素（行動要素）が得られる。興味，態度，鑑賞は，これらの能力要素のうち，3〜4の重複した能力要素から構成されている。たとえば「態度」は，「2.0）反応，3.0）価値付け，4.0）組織化」という少くとも3つの能力要素を含み，これらの要素から構成されている。

なお，上記の5つの能力要素は，一連の階層的な能力要素であることがわかる。つまり，「現象を単に知覚し，受け入れる」，という階層から始まり，後の階層に進むほど行動が内面化し，自已の内部に取り入れられる。行動は外的な統制から，自已の内部からの主体的な統制へと変化する。具体的で意識的な行動から，抽象的で無意識的な行動へと変化する。それゆえ，興味，態度，鑑賞は，発達し高まるにつれて，後の階層へと内面化の過程が進むようになる，といえる。

2. 読書興味の測定法とその考察

読書興味は，興味領域の中でも重要な領域であり，これまでに多くの研究者が種々の測定法を考案し，その研究を行なってきた。ここでは，その中から2，3注目すべき測定法を紹介し，考察を試みることにしよう。

（1）「8年研究」における読書記録を分析する方法[2)]

「8年研究」とは，アメリカにおいて，伝統的教育とデューイーらの進歩主義教育との優劣を比較するために，30余の中学校の協力を得て，8年間に渡り行なわれた一大教育実験である。この教育実験においては，教育効果を多面的に測定するために，種々の新しい測定法が考案された。ここで述べる「読書記録」を分析する方法も，その1つである。

この方法は，先ず生徒に継続的な自由読書についての「読書記録」を書かせる。

読書記録は，1冊読み終るごとに，その著者，書名，読み終った日付，簡単な読後感想文を書かせる。さらに，学校によっては，著者の国籍，年令等も記録させた。教師によっては，生徒の好んだ度合も段階尺度で評定させた。

この読書記録は，半年ないし1年ごとに個人別に集計し，つぎの観点から評価された。

1. 読書量はどれだけ豊富であるか。
2. 読書の種類はどれだけ変化に富み，小説，伝記，詩歌，科学，社会，歴史，政治，経済等広い範囲にわたっているか。
3. 読書はどれだけ選択的であり，自分に合った種類や内容に興味の中心が向けられているか。
4. 読書は学年と共にどれだけ難しさや複雑さを増し，水準が高まるか。

以上のように，読書興味を読書量，読書の巾(種類)，読書の中心傾向，読書の難易水準という四つの観点ないしは能力要素（行動要錬）から多面的に測定評価しようとした点は注目に値する。

第2に，この研究においては，半年ないしは1年というかなり長期的に渡り，実際に読んだ読書記録を分析の資料とした点が注目される。質問紙法だと，このような長期に渡る読書は思い出せないから，せいぜい過去 1，2 カ月の読書について調査せざるを得ない。しかし，わずか 1，2 カ月の読書の調査では，個々人の読書興味を充分に反映することができないであろう。

第3に，この研究においては，教師によっては，読んだ本ごとに好みの程度を5段階に評定させているが，これは読書の満足感を示すもので注目に値する。この点に関しては，橋本重治は，第1表のような「読書記録整理表」を提案している。[3] これは，生徒が一冊読み終るごとに，その本の興味度に応じて，該当する欄に○印をつける表である。これを，半年はいし1年ごとにまとめると，読書興味の発達変化を測定することができる。第1表は，ある中学年の半年間の「読書記録整理表」である。これによると，彼はフィクションもノン・フィクションも，それぞれ広く読書を行なっており，半年間で14冊読んでいる。この読書量は，中学生としては普通であろう。また，興味度は表によると最高の「3」の段階が7つで最も多く，読書から満足を得ていることがわかる。フィクションにくらべ，

第1表　読書記録整理表の例

読んだ本の種類		興味度				
		0	1	2	3	計
フィクション	1. 少年少女物語				○○	2
	2. 動物物語			○		1
	3. 冒険小説		○			1
	4. ユーモア小説				○	1
	6. 探偵小説				○	1
	7. 心理小説					
	8. その他					
	小計	0	1	1	4	6
ノン・フィクション	16. 伝記，自伝				○○	
	17. 詩歌		○	○		
	18. 歴史			○	○	
	19. 科学書		○	○		
	20. 政治・経済					
	21. その他					
	小計	0	2	3	3	8
	総計	0	3	4	7	14

ノン・フィクションをより多く読むという生徒は珍らしいので，彼のフィクション6，ノン・フィクション8という点は，著しい特色ということができよう。

この方法は，以上のように読書の実態に基いて，多面的に読書興味を推定するに足るやり方である。

（2）　阪本一郎の「読書興味診断テスト」[4)]

阪本一郎の「読書興味診断テスト」は，標準化テストであって，全国児童の中で占める個人の読書興味の相対的位置を示すテストである。読書興味の程度を表示する尺度は，2種類ある。1つは，全体的な読書興味の成熟度を示す尺度で，これは，読書力偏差値による。他は，フィクションとノン・フィクションをそれぞれ6種類にわけ，あわせて12種類の読ものそへぞれにおける読書興味の強さを示す尺度で，パーセンタイルを用いたプロフィールによって表示される。

テスト項目は，つぎの第2表の項目例にみられるように，3種の読物のさまざ

第2表　興味テスト項目の例

例1	イ．まんが「子ざるのもんちゃん」 げんきのいいもんちゃんが，竹馬にのってころんだり，川に落ちたりするおもしろいまんが。 ロ．むかし話「おサルのしくじり」 サルの赤ちゃんが，かきの実をとりに行って，いちばん大きいのをとって食べたら，しぶかったお話。 ハ．童話「いなくなったサルの子」 花子がかわいがっていたサルの子がにげてしまい，花子が山の中へさがしに行き，やっと連れ帰ったお話。
例2	イ．絵ものがたり「西部の勇者」 さばくをこえ，ほろ馬車隊が行く。岩かげから現れたインディアンとの戦いに，二ちょう拳銃が火を吹く。 ロ．空想物語「火星人来襲」 火星人の来襲にビルがつぎつぎに爆破される。原子ロケットに乗った松川博士と花子は，火星軍の本陣に逆襲へ。 ハ．科学小説「地球よ永遠に」 某月某日，世界中の原子火薬が爆発される。そこには，生き残った人間のみにくい争が展開される。

まな組み合せから成り立っている。児童・生徒は，3種の読物のうち，最も読み度い読物と，つぎに読み度い読ものを選択する。採点は，最も読み度い読ものに2点，つぎに読み度い読ものに1点を与え，各種の読物別に得点の小計を求める。これが，そへぞれの読物の種別の興味点となる。

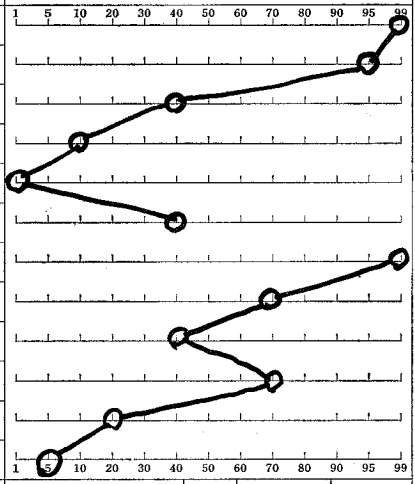
第3表は，ある児童のこのテストの結果を示す。読書興味偏差値欄をみると，その値は23点であり，その評価段階は1であるから，全体としての読書興味は，著しく低いことがわかる。彼の知能偏差値は，51で普通であるから，知能と比較してみても，読書興味の未成熟さはめだっている。

読ものの種類別のプロフィールをみると，フィクションでは僅かにマンガと，むかし昔，ノン・フィクションでは伝記・美談のパーセンタイル値が高く，小学校5年生としては，読書興味の水準ないしは複雑さの面に欠けることがわかる。さらに，軽い読ものに読書興味が偏っており，読書興味の巾と広さが欠けていることがわかる。

以上のように，このテストは全体としての読書興味の成熟度の他に，その偏り

第3表　読書興味診断テストのプロフィール

項目		得点〔◎の数〕	興味発達得点	読書興味診断プロフィール
テストI	A まんが・絵物語	18〔5〕	(20－得点) 2	
	B むかし話	15〔1〕	(20－得点) 5	
	C 童話	10〔 〕		
	D 物語	7〔 〕		
	E ロマンス	2〔 〕	(そのまま) 2	
	F 小説	7〔 〕	(そのまま) 7	
テストII	G 伝記・美談	19〔1〕		
	H 数養書	9〔 〕		
	I 生物科学	9〔 〕		
	J 自然科学	12〔 〕		
	K 歴史・地理	8〔 〕		
	L 社会問題	3〔 〕		
読書興味発達総得点			16	読書興味発達偏差値　　評価段階
診断				



や難易水準などを多面的に測定できるので，読書能力や知能や読書環境等の調査資料と併せ考察するならば，読書指導やその矯正・治療教育にも有効な知見を与えることができよう。

このテストは，標準化尺度を備えており，全国の同学年の仲間集団の中で占める個人の読書興味の位置を明示する。グレーザーのいういわゆる「集団準拠テスト (norm-referenced test)」であり，「客観的測定の用具」という条件を備えている点も，注目してよい。

このテストに於ては，12種の読もの領域それぞれに対する興味度が，診断プロフィールにより測定できるようになっている。しかしながら，テスト1の項目からフィクションに属する6種類の読ものに対する相対的興味度が測定され，これとは全く別個に，テスト2の項目からノン・フィクションに属する6種類の読ものに対する相対的興味度が測定される。それ故，同じフィクション間，ないしは同じノン・フィクション間の6種読もののプロフィールは，比較可能である。し

かし，フィクション間の読ものと，ノン・フィクション間の読もののプロフィールは，厳密な意味では比較できない。何となれば，この場合の二つの測定値は，全く異なる母集団における相対的興味度を示すものだからである。この点は，このテストのプロフィールの問題点ということができよう。ある児童が，フィクションのマンガの尺度値が60％タイル，フィクションの伝記の尺度値が70％タイルであっても，後者の方の興味度が強いとは限らないのである。

また，本テストにおいては，フィクションに属する A. マンガ，B. むかし話，E. ロマンス，F. 小説という4種の読物得点に基いて，全体としての読書興味の発達を示す偏差値を求めている。理由は，この4種の読物領域だけが，相対的な興味発達を示す，という資料が得られたからである。それゆえ，この4種の読もの興味点に基いて，全体としての読書興味の発達点を出すことは，一面では合理的である。しかし，反面から云うと，こういう限られた一部の読もの領域だけに基いて，全体としての興味発達点を算出することは，問題であろう。このテストの各項目は，「3種の読もの領域のどの領域が最も読み度く，そのつぎはどの領域であるか」，というように，相対的興味度を調査する方法によった。そういう方法論のために，他の8種の読もの領域については，興味発達を押える資料が得られなかったのであろう。各読物領域とも，読み度い度合を 5〜7 段階で評定させるようなやり方を採るならば，全読もの領域に基ずいた興味発達を示す資料が得られることは，十分考えられる。この点も，本テスト法において，今後検討すべき課題のように思われる。

本テストは，全く独創的な新しい発想のテストである。したがって，上記のような若干の問題点が考えられるのは止むを得ないところである。全体としては，注目すべき読書興味測定尺度研究であり，今後の研究が期待される。

（3）「八年研究」の文学鑑賞測定尺度[5)]

すでに述べたように，アメリカにおける「八年研究」においては，種々の領域において新しい測定尺度が考案された。つぎに述べる文学鑑賞の領域における測定尺度も，その一つである。

この尺度においては，先ず文学の鑑賞行動の要素分析を行なった。その結果，文学鑑賞は内面化の過程であり，つぎの7つの内面化の水準の異なる行動要素が

分析された。

1.0） ある作品への熱中と作品からの「満足感」

1.1） 面白いと思ったところを，声を出して読む。

1.2） 中断しないで，一気に読み終える。

1.3） かなり長時間，続けて読む。

2.0） 関連のある作品を，もっと読み度いという「波及性」

2.1） 類似の書物を推せんするよう求める。

2.2） 類似の書物を，続けて読む。

2.3） 同じ作者の作品を続けて読む。

3.0） ある作品についていろいろ知り度いという「探究性」

3.1） 読んだ本に関する情報をひとから聞く

3.2） 伝記，由来，批評など，補足的なものを読む

3.3） 批評会，討論会などの文学的会合に参加する

4.0） 作品から得た自分の観念や感情を表わしたいという「自已表現性」

4.1） 作品に従って創造的な企画をたてる

4.2） 作品に対する批評文を書く

4.3） 作品に関する絵画，作曲，劇化等を試みる

5.0） 作品の場面に，自分も参加しているように思ったり，作中人物になり切って読む「同一視」

5.1） 作中の人物，場面，出来事を現実のものとして受取る

5.2） 出来事を劇化する

5.3） 登場人物の話や行為を真似る

6.0） 作品の提起した人生上の諸問題に関して，自分の考をはっきりさせようという作品の「生活化」

6.1） 作品の扱かう人生問題について，自分の考えや感情を表明する

6.2） これらの人生問題に関する情報を調べる

6.3） 類似の人生問題を扱った他の作品を読む

7.0） 作品を，自分の価値観や哲学に基いて評価する「評価性」

7.1） ある作品が名作であることの要素を考えて指摘する

第4表 「8年研究」の文学鑑賞テスト項目の例

(1)	学校の課題とは別に，よく文学書を読むか	「満 足 性」
(2)	近く読みたいと思っている書物を，1，2冊，心に描いているか	「波 及 性」
(3)	新聞・雑誌の読書欄は，決まって読んでいるか	「探 究 性」
(4)	読書が，自分の創作の刺激となっているか	「自已表現」
(5)	作品の主人公のように，何らかの点でなり度いと考えたことがあるか	「同 一 化」
(6)	読書が日常生活の問題の理解に役立っていると思うか	「生 活 化」
(7)	作品の評価を自分の考えに基いて行なう文章を時々書くか	「評 価 性」

7.2） いくつかの受け入れ難い要素につき，どうすればよくなると説明する

7.3） 公刊されている種々の批評を調べる

鑑賞の行動要素を，「八年研究」においてはこのように分析しているが，このうち，1.0）から7.0）の行動要素に進むにつれて，行動は外的行動から内的な行動へ，と内面化の過程が進められる。

これらの行動要素を母集団とし，全部で 100 個の質問項目を作り，「はい（賛成），「わからない」，「いいえ（反対）」のいずれかで答える質問紙法による測定尺度を作製した。その質問項目の例は，第4表のとおりである。

上記のうち，「満足性」と「波及性」の質問項目は，一緒にして「愛読性」とする。そして，これら行動要素毎に，「はい（賛成）」という反応の％を個人別に求め，これを一覧表にしたのが鑑賞得点の整理表である。その表によると，たとえば生徒Aは，合計欄が77％タイルであり，学級の中間点64％タイルより高く，Aの鑑賞力は全体として平均以上にすぐれている。分析的に行動要素別にみると，「愛読性，探究性，自已表現」において勝り，「評価性」において劣ることがわかる。それゆえ，生徒Aは作品を評価する活動に今後指導の手を加えるならば，鑑賞行動が一層調和的ですぐれたものになるであろう。

「八年研究」における文学鑑賞の測定尺度は以上のようなもので，当時の研究水準からいうと行動要素の考え方もその分析も極めて優れており，鑑賞の指導に有効な知見をもたらす測定尺度ということができよう。

ただ，これは質問紙法について一般的にいえることであるが，生徒が正直に解答するかどうかに，その信頼性や妥当性が大いにかかっている。平素から生徒との信頼関係があり，かつ測定時にいわゆるラポールの状態を作り出すことが，こ

の種測定法においては極めて大切なことである。

（4） レビイの読書興味・態度の測定尺度[6)]

レビイは，読書に関するカリキュラムを注意深く調査し，共通な情意的目標として，つぎの4つが確認された。

1） 一生を通じて名作を読む習慣を作る。

2） 情報を得る道具としとの読書を行なう。

3） 良書に接して心の安らぎを見出す。

4） 読書を計画したり評価したりの大切さの感受性を養う。

こうした目標に添い，かつ既に述べたクラスウォールの興味，態度，鑑賞の行動要素に基づいて，読書興味・態度測定尺度を作成した。その質問項目は，つぎの第5表のようである。各質問項目に対する回答は，「はい」，「いいえ」で行なう。

第5表 レビイの読書興味の態度測定尺度のテスト項目例

1） 受け入れ
- 1. 8） 読ものについて話し合うクラブへ参加する関心がありますか
- 1.12） 読書の時間をもっと持ちたいと思いますか
- 1.13） 今すぐにも読み度いと思う本がありますか
- 1.15） アメリカの有名な作者について知り度いと思いますか。

2） 反応
- 2. 9） 飽きないで，1時間ぐらいは読書をしますか。
- 2.17） ひまな時本屋の前に来たら，ウィンドーの本の題名をのぞきこみますか
- 2.18） 本を読み始めたら，2，3日中には読んでしまいますか
- 2.19） 放課後や夜，好きな本を読んですごしすことは，めったにありませんか

3） 価値付け
- 3.10） 読書に夢中になって，身のまわりで何が起きたか気づかないことがよくありますか
- 3.20） 本屋や図書館で，拾い読みしながらひまをつぶすことは，ありませんか
- 3.22） 自分の好きな本を集めていますか
- 3.23） 読み度い本が学校図書館にない時には公共図書館から借りてきますか

4） 組織化
- 4.11） 読書によって，新しい趣味か興味を持つようになったことがありますか
- 4.25） 進路を選ぶとき，読書が何らかの影響を与えましたか
- 4.26） 失業問題のような社会問題に対する意見を形成するとき，読書が何らかの影響を与えましたか
- 4.27） 結婚や家庭生活についての意見を形成するとき，読書が影響しましたか

表にみられるように，レビイの尺度は，質問紙法を用いており，かなり組織的に質問項目の見本抽出が行なわれている。項目数が多いので，測定の信頼度は高いが，妥当性については，さらに今後の詳細な研究に俟たねばならない。

（5） 日本読書学会の文学鑑賞の測定法研究[7)]

日本読書学会の読書教育部会は，つぎに述べる四ツの異なる文学鑑賞測定法により，その妥当性に関する実証的研究を行なった。

1） 与えられた作品を読み，「客観的テスト」形式の設問により，読後の情意的な印象を調べる「客観的テスト法」

2） 与えられた作品を読み，「感想文」を書かせて，これを分析する「感想文法」。

3） 短い作品を一対ないし数箇与え，優れた方の作品を選択させたり，序列をつけさせたりする「作品比較法」

4） 与えられた作品を読み，前述の「八年研究」で用いた鑑賞測定尺度を用いる「質問紙法」

被験者は，同一の中学生群であり，測定方法はつぎのとおりである。

1） 与えられた作品を読み，客観的テスト形式の情意的印象テストによる方法

被験者が先ず読むべき作品は，散文と短詩を用いた。散文の場合は，「この文章の全体からどのような感じを受けましたか。あなたの受けた感じと同じものには○印を，違うものには×印をつけなさい」と云って○×をつけさせる。受けた感じには，たとえば「軽いユーモアの感じ，ゴツゴツした力強い感じ，おだやかな中にもひき締った感じ」等がある。

この鑑賞テスト点の妥当性を検討する為に，1つには，上位群と下位群に分けて，それぞれの読書能力テスト成績の平均点を算出した。それによると，両群の間に有意的差があり，読書力とは密接な関係がみいだされた。

第2に，他の鑑賞測定法との関係を検討した。その結果は，第6表に示してある。この表によると，この客観的テスト形式で情意的印象をたずねる客観的テスト法は，他の方法と低い値ではあるが，プラスの相関を示している。このことは，これらの方法によって測定される文学鑑賞は，共通な能力要素を持っているが，他方においては，それぞれ独自の能力要素もかなり持っているように思われる。

第6表　四種の鑑賞測定法の相関

	1. 客観的テスト	2. 感　想　文	3. 作品比較	4. 質　問　紙
1. 客観的テスト	—	0.21	0.22	0.15
2. 感　想　文	0.21	—	0.06	0.27
3. 作品の比較判断	0.22	0.27	0.02	—
4. 質　問　紙　法	0.15	0.27	0.02	—

それが何であるかは，今後のより組織的な研究の成果にまたねばならないであろう。

2）与えられた作品を読み，読書感想文を書かせて，これを分析する方法

芥川竜之介の作品「杜子春」を与え，1週間の自由読書期間を置いて，読解テストと感想文とを行なっている。読解トストは，鑑賞力との相関をみる目的もあるが，読解テストを行なう予告を行ない，読解を促進させるためでもある。全員が進んで読むとは限らない自由読書においては，このような動機付けの配慮が望ましい。

鑑賞の測定・評価をより客観的に行なうために，本研究に，つぎのような評定段階を評価規準としていることも，注目してよかろう。

評定段階「5」——叙述，あら筋，主題といった特定の読解過程を正しく理解し，それに即した，かなり深い感想が述べてある。

評定段階「4」——上述の特定の読解過程を正しく理解し，それに即した感想が一応まとまっている。

評定段階「3」——上述の特定の読解過程を正しく理解し，これを記述して感想としたもの。

評定段階「2」——上述の特定の読解過程の理解が不充分であるが，それに即したある種の感想は述べてあるもの。

評定段階「1」——上述の特定の読解過程の理解が行なわれず，見当違いの感想が述べられているもの。

したがって，いま生徒Aが叙述段階で評定「2」，あら筋段階で評定「3」であるならば，総合評定は，あわせて5点となる。一般には，叙述，あら筋，大意，主題の4つの読解過程のうち，2〜3の過程に渡る感想文が多い。

この方法による鑑賞得点は，読解得点ともかなりのプラスの相関があった。その点では，概念的妥当性が一部検証された，といってよかろう。

しかしながら，読解の4過程の感想得点を単に機械的に加えるやり方が適当かどうか，今後さらに検討を要するであろう。その点は，本研究の執筆者も述べているところである。

3） 複数の短い作品を読ませ，その優劣や序列をちけさせる「作品比較法」

短かい作品の比較という意味で，この研究では和歌，俳句，詩が，読むべき作品として選ばれた。優劣比較の項目では，第7表のような問題項目が選ばれた。

第7表　作品比較法（一対比較）の項目例

問1	イ．山々に秋風の吹く夕ぐれは， 小鳥の声にわびしさを思う ロ．裏山に秋風の吹く夕ぐれに， 鳩の鳴き声低く聞こゆる。
問2	イ．秋風にコスモスの花ゆらゆらと 揺れても折れぬこの細い茎 ロ．わが庭に咲き盛りなるコスモスの 風吹くたびにたなびきては立つ
問1	イ．春の日や，暮れても見ゆる東山 ロ．春の日に，暮れても見ゆる東山
問2	イ．しずかさや，湖水の底の雲の峰。 ロ．雲の峰，湖水にうつりしずかなり。

この研究では，別に標準読書力テストを行ない，読書力との関係を明らかにしている。それによると，両者の間には有意味な相関が得られなかった。これは，テスト項目の難易度が必ずしも適切でなかったためかも知れない。また，テスト項目数も11題で，十分な長さとはいえないであろう。その妥当性に関しては，さらに今後の研究にまたねばならない。

4）「八年研究」で開発された文学鑑賞テスト

読ませた作品は，芥川竜之介の「杜子春」であり，一週間の自由読書の課題を与えた。さらにその後10日たってから，文学鑑賞テストが実施された。この文学鑑賞テストは41項目で，それらは熱中性，波及性，探究性の他「八年研究」の行動要素7つにわたっている。

各問題項目の G. P 分析を行なった結果によれば，大部分のテスト項目は弁別力のあることが実証された。また標準化読書能力テストとの間には，有意味な相関が見出された。これらの検討結果から，この方法には一応妥当性がある，といえよう。しかしながら，測定尺度の妥当性はさらに種々の角度から多面的に検討されねばならない。とくにカリキュラム的妥当性，ないし内容的妥当性は，この種のテストにおいては極めて重要であり，今後のその点の検討が望まれる。

以上，4種の文学鑑賞の測定法の妥当性について述べてきた。再びここで第6表に戻ると，第3番目の作品の優劣を比較判断するやり方は，他の鑑賞測定法との相関がほとんどなく，やや異質のように思われる。その理由は，この方法は詩や短歌，俳句を読書材としているが他は散文だけ，ないしは散文中心である。そういう読書材の違いも，すでにあげた2つの理由の他に考えられる。さらに，作品の優劣を評価判断する力は，いわゆる情意的な鑑賞力というよりも，その認知的側面に重点があることも考えられる。この点も，今後の研究課題ということができよう。

引用文献

1) Krathwohl, D. R., Bloom, B. S, & Masia, B. B.: Taxonomy of educational Objectives, The Classification of educational Goals. Handbook 2. Affective Domain; Mckay 1964

◦つぎの書物の第10章に紹介がある。

Bloom, B. S. and others: Handbook on formative and summative Evaluation of Student Learning; Mc Graw-Hill Inc., 1971

2) Smith, E. R. & Tyler, R. W.: Apprasing and Recording Student Progress; Harper, 1942, p. 319

3) 橋本重治「新・教育評価法総説」金子書房，1976年，p. 108

4) 阪本一郎「読書興味診断テスト」収書店

5) 前出註 2) のスミス著 p. 251

6) Levy, A.: The empirical Validity of major Properties of a Taxonomy of affective educational Objectives; University of Chicago, 1966 p. 58

◦前出（註1）のブルーム他著の書物第10章に紹介がある。

7) 日本読書学会読書教育研究部「文学作品鑑賞力」の評価法　読書科学第4巻第4号 1960年 p. 5